

自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：15501

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730556

研究課題名 (和文) オランダにおける初等学校の英語指導者養成プログラムに関する研究

研究課題名 (英文) A Study on Teacher Training Program for Teaching English in Dutch Elementary Schools

研究代表者

猫田 和明 (NEKODA KAZUAKI)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：90379917

研究分野：英語教育

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：英語教育、初等教育、オランダ、教員養成・研修、資質・能力

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、初等学校で英語を教えようとする者に求められる資質・能力を具体化し、それに基づく教員養成・研修プログラムの充実に資することである。本研究ではオランダの事例と比較することで、日本で求められている英語指導者像の特徴を浮き彫りにし、これに対応したプログラムの開発を目指している。主に次の3つのことを柱として研究を行う。

- (1) 指導者が身に付けておくべき資質・能力に関する調査
- (2) オランダにおける教員養成プログラムの内容に関する調査
- (3) 上記2点に基づく講義・演習のシラバスの開発、実践、評価

2. 研究の進捗状況

研究計画に記載した3つの柱に基づいて、進捗状況を報告する。

(1) については、オランダの外国語教員スタンダードの内容と日本の関連する文献に見られる英語科教員の資質・能力観を比較した。その結果、オランダに特徴的な要素は、(1) 目標言語の定常的な使用、(2) 社会文化的能力の重視、(3) 自立学習の重視、(4) 教員集団におけるチーム力の重視などであり、日本に特徴的な要素は、(1) 教科書の内容を中心とした指導力、(2) 学習意欲の重視、(3) コミュニケーション活動の重視、(4) 教職への情熱・使命感などであった。

次に、小学校における英語指導者と中学校英語科教員に求められる資質・能力の共通点・相違点を明らかにするため調査を行った。

その結果、共通点としては学習者のオーラル・コミュニケーションを活発化させる支援的な教室の雰囲気づくりの重要性が指摘された。相違点としては、中学校教員は英語や教授法の知識、読み・書き能力及びその指導力、学習内容の定着及びその評価方法に関するものを重視していたのに対して、小学校教員は児童の学習動機を高めるための教材の柔軟な活用を重視していた。また、同僚やALTとの協力を重視していることが際立っていた。

(2) について、オランダでは初等学校教員の養成は高等職業専門学校 (HBO) の4年間のプログラムで行われる。そのうち、英語に関する科目はカリキュラム全体からすればごくわずかであり、周辺的な位置づけになっている。オランダの初等学校における英語の指導法として *vierfasenmodel* (4段階指導モデル) と呼ばれるものがよく知られている。これは、既習事項や背景知識を使いながら意味を予想したり、聞いたり、話したりする活動を経て、段階を踏んでコミュニケーション活動へとつなげていく考え方である。

(3) については、(1)(2)の研究成果をもとにシラバスを開発し、実践した。年間を通して参照できるチェックシートを学生に配布し、毎回の講義・演習の理解度を自己評価させ、授業レポートを書かせた。教員はこのレポートに毎回個別にコメントを付けて返却した。前期は外国語活動の基礎的な事項を解説した後、本に掲載されている活動をアレンジするプロジェクト課題を課した。後期は受講者はHRT役とALT役になってペアで模擬授業を行い、授業評価と協議を行った。

これらの活動についてアンケート調査を行ったところ、チェックシートに基づく授業レポートと教員からのコメントにより学習内容の定着が図られたこと、プロジェクトを通して知識の統合が図られたこと、模擬授業を通して外国語活動を担当することへの不安が軽減されたこと等の点で成果が見られた。

3. 現在までの達成度

「② おおむね順調に進展している」

(理由) 研究の柱(1)～(3)に沿って記載する。

(1) 指導者が身に付けておくべき資質・能力に関する調査

この柱については、今年度までの研究でほぼ目的を達成した。オランダ及びヨーロッパの文脈での資質・能力観と比較することによって日本の教員養成で重視されている要素を浮き彫りにすることができた。また、小学校教員と中学校英語科教員へのアンケート調査を通して明らかになった資質・能力観の相違は、大学における関連科目のシラバス開発において有用な情報となった。

(2) オランダにおける教員養成プログラムの内容に関する調査

この柱については、今年度までの研究で必要な情報は収集されている。英語教育に限らず、オランダにおける教員養成のカリキュラムの中で実習の位置づけは極めて大きい。英語に関するモジュールが十分提供されているとは言えないが、HBO と小学校を往復しながら指導法への理解を深めていく点に特徴がある。このように知識の獲得と実践を繰り返しながら学んでいくプロセスを参考にして講義・演習のシラバスを開発した。

(3) 上記2点に基づく講義・演習のシラバスの開発、実践、評価

この柱については、2010年度からパイロット的に実践しており、学生へのアンケート調査、授業レポート、期末レポートなどのデータを収集している。これによって最終年度に向けて、見通しをもつことができた。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度の主な課題は次の2点にまとめられる。

(1) オランダにおける教員養成プログラムや小学校英語の指導法に関する科目の内容を整理してまとめること。

(2) 今年度行った講義・演習の経験をもとに、チェックシートの修正、授業内容や課題の検討、この科目を受講した学生による授業評価の方法等の検討を行うこと。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 猫田和明 (2010) 「英語指導者に求められる資質・能力の具体化を目指して—小学校教員と中学校英語科教員へのアンケート調査から—」『中国地区英語教育学会研究紀要』第40号 pp. 51-60. (査読有)
- ② 猫田和明 (2009) 「外国語教員に求められる資質・能力—日本とオランダの比較—」『日本教科教育学会誌』第32巻第2号 pp. 31-40. (査読有)

[学会発表] (計2件)

- ① 猫田和明 「英語指導者に求められる資質・能力の具体化を目指して—小学校教員と中学校英語科教員へのアンケート調査から—」第35回全国英語教育学会(鳥取大学) 2009年8月8日
- ② 猫田和明 「オランダにおける外国語教師の資質に関するスタンダードの開発」第34回日本教科教育学会(宮崎観光ホテル) 2008年12月6日

[図書] (計0件)

[産業財産権] (計0件)

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

なし